

## 令和5年度 常任委員会合同視察研修報告

- 日 程 令和5年11月7日（火）～9日（木）
- 視 察 先 北海道当別町・北海道和寒町・北海道博物館
- 視察項目 北海道当別町
- ①「ふるさと納税の取組について」
  - ②「近隣の大学との連携・活動について」
- 北海道和寒町
- ③「第6次和寒町総合計画によるまちづくりについて」
    - ③-1 移住定住、子育て支援、人口減少対策の取組
    - ③-2 基幹産業（農業）の推進
- 北海道博物館
- ④「高齢者と協働する地域学習プログラム（文化財の伝承）について」
- 出 席 者 町議会議員全員（8名）
- 帯同／澤野参事兼総務課長、野村こども課長、天池議会事務局長

### 報告者 総務産業建設常任委員長 山田 直行

#### ① 北海道当別町「ふるさと納税の取組について」

当別町でふるさと納税の取組について話を伺いました。当別町のふるさと納税（寄附額）は、令和4年度は24品目で寄附件数は23万6千件あり、寄附額は約29億5千万円とのことでした。その中で特に注目すべきは、有名な某チョコレートメーカーのチョコレート等の返礼品が、寄附額の6割強を占めているとのことでした。当別町にあるこの会社工場には、この寄附額の一部を財源として建てられた新しい駅舎が工場のすぐ近くに設けられており、ますます町の活気がみなぎっている様子でした。

わが町富加町におけるふるさと納税（寄附額）は、令和4年度末で約4,500万円ほどですので、当別町の額とは桁違いで、歴然とその差を感じました。国の令和5年10月の返礼品条件の見直しで品目数が少なくなり厳しい状況ですので、注目に値する返礼品を見いだすこと、また新しい発想での返礼品の開発も必要であることをつくづく実感しました。



報告者 文教厚生常任委員長 林 由香里

② 北海道当別町「近隣の大学との連携・活動について」

当別町には、4千人規模の北海道医療大学があります。当別町と大学は密接な連携を図っており、富加町でも岐阜医療科学大学との関係を模索したく、その内容を視察しました。

当別町と大学との連携では、町職員の検診等の委託、中学生や高齢者の検診やレク、フレイル予防体操等の依頼、学生の通院通学のためのコミュニティバスの共同運行（町で経費を負担）等の町からの働きかけだけでなく、各種委員会への教授等の出席、小・中・高・大学生によるタウンミーティングの開催、福祉ワークショップや、虹色サマーキッズなどの活動に750名以上の大学生がボランティアとして企画・参加するなど、大学側も町の一員として町の課題と一緒に取り組んでみえました。

しかし、大学が急遽、他市への移転を決めたことで、町は現在対応に苦慮している様子がうかがえました。社会情勢の変化に柔軟にどう対応していくのか、連携が密接であっただけに、今後注視する必要があると考えられます。

報告者 文教厚生常任委員長 林 由香里

③-1 北海道和寒町「移住定住、子育て支援、人口減少対策の取組」

和寒町議会は、今から10年前、富加町の郷土資料館に視察で来町されており、その縁もあって、今回の視察はその成果と和寒町の子育て支援策の強化を視察しました。

子育て支援については、ほぼ富加町と同様のものが多かったですが、補助としては不妊治療費の無償化、保育園の完全無償化（副食費まで無償）、学校給食費3割軽減、高校生通学費補助などが特筆されます。また、一人ひとりの子育てファイル「すとーりー」があり、関係機関での情報共有に役立っていると言えます。それでも昭和50年の7,435人から現在は3,000人以下となっており、人口も子供の数も減少に歯止めがかからない状態でした。

また、歴史資料館については、北海道開拓使以来の歴史としては浅く、古代からの歴史を誇る富加町との差異を痛感され、構想を断念されたとのことで、現在の観光の目玉は、「塩狩峠」。同名の小説



の舞台であり、作者の三浦綾子氏の旧宅を塩狩峠駅近くに移築し、塩狩峠記念館としていました。人口減少については、地の利の少なさの厳しさがありますが、その中で大いに奮闘している町でした。

**報告者 総務産業建設常任委員長 山田 直行**

③-2 北海道和寒町「基幹産業（農業）の推進」

和寒町では、特に農業振興に取り組む姿勢に注目しました。就農支援については、積極的に補助金を出して活性化を目指しており、人口減少により離農する農家の農用地に関して現在では受取農家があり、その点については問題ないとのことでした。農家に対する主だった対策としては、冬の時期に和寒越冬キャベツとして産地・ブランド化し、現在に至っているとのことでした。また、カボチャの生産も盛んで、日本でもトップクラスの面積、収穫量を誇っていました。そこに付随して加工品の生産販売を行い、すこぶる元気な町であると感じました。

わが町富加町はどうかと考えると、なかなか難しい課題であると感じました。今回の行政視察では、北海道の地を訪れることにより、開拓者精神のたくましさがこの大地に感じる事が出来ました。

**報告者 文教厚生常任委員長 林 由香里**

④ 北海道博物館「高齢者と協働する地域学習プログラム（文化財の伝承）について」

北海道博物館では、高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発に長年取り組まれている青柳かつら先生の講義をお聞きしました。

富加町も社会生活の変化が著しい現在において、民俗資料の存在の危うさやその使い方を伝承する方たちの高齢化から、民俗資料の保存や記録が急務となっています。また、学校地域協働活動において、次代にどう伝承していくのかも課題となっています。

そこで、研修前に全議員で富加町内の活動についての事前研修を行い、課題を共有した上での視察研修となりました。講義では、朝日郷土資料室（士別市）や智恵文公民館（名寄市）での取組について学び、映像での記録方法、伝承の聞き



取り方（特に高齢者の記憶の掘り起こし方、場の提供の仕方など）を、具体的に教えていただきました。また、地元の中  
学生への伝承活動の実践の紹介していただき、コミュニティスクールでの活動への指針にもなりました。

一方で、こうした活動が高齢者の自己肯定感を高め、健康寿命を延ばすことにもつながることもデータを基に実証され、富加町でも、文化財の保護という観点だけでなく、福祉の観点からも必要な事業であると認識しました。

